

平成26年第2四半期

1 社会・治安情勢

(1) 教育機関における治安の悪化

マルビン・ノルテ地区の中高等学校周辺で、教員や生徒に対する強盗や恐喝事件が相次いで発生しているのを受け、同学校に勤務する教員らが安全確保を求めている。

(2) フーリガン問題

フーリガン問題で、サッカー協会会長を含む幹部ら5名が総辞職した。バウサ会長は、今回の辞職に踏み切った理由については、多くの問題を解決しようと努力してきたが、各クラブチームから信頼を失い、FIFAが政府による介入があったかどうかの調査を開始するよう南米サッカー連盟（CONMEBOL）に指示した。政府による介入問題とは、3月に発生したフーリガン暴動で、ムヒカ大統領がスタジアム内での警察による警備を全面中止する決定をしたことから週末に予定されていた1試合が選手の安全が確保されないとの理由で、選手会による協会に対する要請を受け、試合中止が決定されたもの。

(3) 治安回復に向けての7地区計画

内務省は2013年10月からスタートしたモンテビデオ及びカネロネス両県内の郊外に所在する7地区において、治安改善の一環として同地区内における警ら強化や照明の充実、広場の建設等、治安対策と社会政策の組み合わせの実施が試験的に開始された。

7地区とはモンテビデオ県のマルコーニ、イトウサイング、トレス・オンブーエス、チャカリタ・デ・ロス・パドレス、カネロネス県のビスタ・リンダ、オベリスコ、ラス・シンコ・ビジャスを指す。

(4) 少年犯罪の年齢引き下げに関するアンケート調査結果

2014年10月に実施予定の、少年犯罪における年齢引き下げの国民投票に関して、エキーボス社が行ったアンケート調査で、回答者の57パーセントが賛成と回答、36パーセントが反対、7パーセントが分からない、無回答であった。

同法は、刑事罰対象年齢を18歳以上から16歳以上と年齢を引き下げるもの。

(5) 大麻規制管理法についてのアンケート結果

エキーボス社による大麻規制管理法についてのアンケート結果は、65パーセントが反対、25パーセントが賛成、9パーセントがどちらとも言えない、1パーセントが分からない、無回答であった。

また、ラポップ社が行ったアンケートでは、大麻の栽培、販売、使用等について59.9パーセントが反対、33.5パーセントが賛成と回答した。一方、同法の目的を知っているかに関しては、本来の目的である犯罪及び麻薬密売対策が37.1パーセント、18.5パーセントが知らない、10パーセントが利益目的、6.6パーセントが健康目的、5.5パーセントが選挙目的と回答した。

(6) ドメスティック・バイオレンス

2013年2月から運用を開始したドメスティック・バイオレンス加害者に対するアンクレット式のGPS装着について、1年間で156人に装着されていたこと

が明らかになっており、現時点で61人が装着している。なお被害届出の件数は年々増加している。

2010年 9,084件

2012年 15,868件

2013年 23,988件

2014年 26,086件

(7) 犯罪の凶悪化と遵法精神の低下

2014年に発生した事件についての裁判所の関連ファイルから、犯人らが犯行時に、相手がたとえ警察官であろうと、容赦なく発砲し、警察に追跡された際にも同様に発砲していることが確認されている。

警察幹部によると、警察官への発砲は1年半前から始まり、追跡時と麻薬の取締時に確認されている。また、検察によると、最近犯罪者の警察官に対する不服従が目立つ。

また、警察官も、発砲によって一般人を巻き添えにしたり、背後から発砲したと判断された場合など警察官も刑事責任に問われることを恐れて発砲できない状況にあることを指摘している。

(8) 捜査における監視カメラの活用

司法の場における監視カメラの録画画像の有効性について、警察・検察と裁判所との間で見解の相違がある。ボノミ内務省大臣は、同画像を証拠として採用する判事とそうでない判事がいることについて批判する発言をした。

なお、旧市街、セントロ及びコルドン地区には約300台の監視カメラが設置され、24時間体制で警察が監視している。

(9) 少年犯罪における銃の使用

司法、警察関係者によると、少年犯罪における銃の使用が日々増加している。背景には、どんな武器を使用しても少年法で保護されていることや、最近の商店経営者による銃器所持の増加等を受け、『撃たれる前に撃つ』といった銃は使用するためにある意識が広がっていることがある。最近の経済の好況や治安悪化を受け、多くの国民が良質な銃を所持する傾向にあり、これらの銃が空き巣などにより盗まれて少年らの手に渡っている。また、警察や銃器収集家から盗難にあう銃もある。

2 犯罪統計、薬物統計

(1) 2013年の犯罪情勢（内務省発表）

四半期ごとの犯罪統計は公表されていない。

なお、昨年中の犯罪統計について以下のとおりである。

	2013年	2012年	増 減
殺 人	260	267	-7
強 盗	16,718	15,414	+1,304
窃 盗	97,465	96,827	+638
強 姦	290	257	+33

(2) 2013年中薬物の押収量（内務省麻薬取締局発表）

薬物 / 年	2012	2013	2014※
大麻	1, 848	2, 188	316. 342
コカイン	647. 534	1, 528. 991	12, 006
パスタ・バセ	194	92	111

単位はKg

※4月中旬現在

なお、他にもLSDやエクスタシー（MDMA）の押収もまれに確認されている。

3 一般犯罪、凶悪犯罪の事例

(1) 強盗（未遂及び強盗殺人を含む）

日本人の被害は報告されていないが主な事例は以下の通り。

ア バス対象

- ・ 4月14日、トレス・オンブエス地区のバスターミナルを出発した **COME** 社のバス（524番、アドゥアナ行き）に乗車した若い男が51歳の運転手兼料金徴収人の男性を刃物で脅し、売り上げ金を奪おうとした。運転手が抵抗したため取っ組み合いとなったが、男は運転手の顔面と腕の2箇所を刺した後、現金を奪って逃走した。
- ・ 5月17日、ブセオ地区において、銃を持った2人の犯人がバスに乗り込み、運転手兼料金徴収人から現金を強奪、犯人は徒歩で逃走した。
- ・ 5月20日、マンガ地区において犯人一人がバス停留所から乗り、フォークで脅して運転手兼料金徴収人から売上金を脅し取った。犯人はその場から逃げた。
- ・ 5月21日、2人の少年が169番バスに乗り込み、運転手を脅して金を盗み、刃物様のもので傷つけて、逃走した。
- ・ 5月27日、ペニャロールにおいて、2人の犯人が **Cuctsa** のバス174番に乗り込み、刃物で運転手を脅し、バス代を強奪しスラム街方向へ逃走した。
- ・ 5月29日、ビジャ・ガルシア地区において、**Copsa** バスで強盗があった。犯人は乗客が降車したことを利用して、運転手兼料金徴収人から運賃を強奪した。
- ・ 6月1日、ピエドラス・ブランカス地区において24時間の間に2件のバスに対する強盗があった。
- ・ 6月2日、メンドーサ地区において **Cutcsa** の110番線バスがシウダデラに向かう途中、2人の犯人が、カップルと運転手をナイフで脅して売上金を強奪した。
- ・ 6月3日、コロン地区において、モンテビデオ行き **4DR** のバスの運転手が2人の乗客に武器で脅され金を強奪された。
- ・ 6月6日、パソ・デ・ラ・アレナ地区を通行中の **Cutcsa** 社の128番バスに、3人組の少年が乗り込み、刃物で運転手の肩を切り付け、売上金を強奪した。

- ・ 6月3日、ラバジェハ地区を通行中の Coetc 社の L 2 9 番バスに乗っていた男が運転手を刃物で脅し、売上金及び携帯電話を強奪して逃走した。
- ・ 6月8日、ラバジェハ地区を通行中のレインコープ社のバスに2人組が乗り込み、運転手を銃で脅して売上金を強奪して逃走した。

イ タクシー対象

- ・ 5月2日、タクシー運転手が客のスーツケースをトランクに入れようとして車を降りたところ、何者かがタクシーを強奪し、運転して持ち去った。
- ・ 5月20日、マルビン地区において、1台のバイクに乗った2人の容疑者は、タクシー運転手から売上金と GPS を奪い、逃走した。
- ・ 5月27日、ハルディネス・デル・イポドロモ地区において、3人の犯人がタクシーを強奪した。タクシーの中には犬がいて、犬も一緒に盗んでいった。犯人は逮捕されたが、そのうちの一人は12歳であった。
- ・ 6月1日、マルビン・ノルテ地区において、運転手が乗客を降ろし、次の3人の乗客を乗せたところ同人らは売上金を奪い、スラム街まで逃げた。
 - ・ 6月8日、カサバジェ地区において、乗客を装いタクシーに乗車した3人組が、目的地に着いた途端、ナイフと銃で運転手を脅して売上金とナビゲーションを強奪して逃走した。
- ・ 6月8日、マルコーニ地区から乗車した男女のカップル2組が、目的地において持っていた銃で運転手を脅し、売上金とナビゲーションを強奪して逃走した。

ウ ガソリンスタンド対象

- ・ 5月16日、プンタ・ゴルダ地区において、バイクに乗った2人の容疑者が、ガソリンスタンドで店員を銃で脅し、ガソリンスタンドの売上金とガソリンスタンドに併設のコンビニ店の現金を強奪した。
- ・ 5月17日、カネロネス県ラ・パス市内のガソリンスタンドで強盗があり、客として偶然居合わせた警察官が、強盗犯2人と撃ち合いとなり、7発の銃弾を浴びて重傷を負った。
- ・ 6月2日、カプロ地区において、2人の犯人が店員を銃で脅し、売上金を強奪した。犯行が録画されているビデオが残っていた。
- ・ 6月5日、ブセオ地区において、バイクに乗った2人組の強盗が押し入り、銃で店員を脅して売上金を奪って逃走した。

エ 住宅対象

- ・ 5月15日、ラバジェハ県のウレタ議員（国民党）が自宅で2人組の強盗犯に脚を撃たれ、負傷した。
- ・ 5月16日、マンガ地区において、31歳の女性が家に着くと、3人の男と鉢合わせになり、銃で脅され、現金、テレビ、2個の携帯電話と服を奪われた。
- ・ 5月18日、マルドナード県の民家に2人組が侵入し、同家に住む70歳の夫婦及び娘の3人を銃で脅し、手足を縛ったうえ猿ぐつわをかませ、一室に閉じ込めた。2人組は現金400ドルの他に、携帯電話や時計、指輪などの貴重品を奪って逃走した。なお、同家には警報器が設置されているが、犯行当時

はセットされていなかった。

- ・ 5月21日、ピエドラス・ブランカス地区において、男女が自宅に帰り着いたとき、強盗犯人と遭遇し、男性が3発の銃弾を受けた。犯人は徒歩で逃走した。
- ・ 6月2日、カラスコ地区において、民家に2人組の強盗が押し入り、81歳の住人男性と家庭教師の男性の手足を縛り、現金4万ペソ、腕時計、香水、ノートパソコンなどを強奪して逃走した。

オ 店舗対象

- ・ 4月1日、ラ・フィグリータ地区において、スーパーマーケットにヘルメットをかぶり銃を持った男2人が押し入り、現金及び催涙ガスを奪って逃走した。
- ・ 4月5日、パルケ・バジェ地区において、ATM機を四輪駆動車とワイヤーでつなげて強奪しようとしている4人組と警察官との銃撃戦となった。犯人は逃走したが盗まれたものはなかった。
- ・ 4月7日、ラ・ウニオン地区において、現金輸送車を狙った4人組に気付いた警察官が同人らを職務質問したところ、銃撃戦に発展した。近くでハンバーガーを食べていた女性が流れ弾で腕を負傷したほか、駐車中の車2台の窓ガラスが割れるなどの被害があった。犯人4人のうち2人が逮捕された。
- ・ 4月9日、サシャーゴ地区において、キオスクや個人商店、配達人に対する強盗が相次いだ。いずれもけが人はなかった。
- ・ 4月12日、ピエドラス・ブランカス地区で、個人商店に若い男一人が来店し、格子越しに対応していた店主の男性に発砲し殺害した。
- ・ 4月13日、ポシートス地区において、スーパーマーケットに銃を持った男が銃で店員3人を脅し、売上金を奪って逃走した。
- ・ 4月13日、Union地区において、薬局に男一人が押し入り、店員2人を銃で脅した上、レジから現金を奪い、店員を店内のトイレに閉じ込めてから逃走した。
- ・ 4月15日、ポシートス地区において、男一人がガソリンスタンドに併設のコンビニ店から現金1万7千ペソを強奪して逃走した。
- ・ 4月15日、カネロネス県ラ・パス市内の個人商店に目出し帽を被った男一人が押し入り、女性客に銃を突きつけ現金を要求した。店主の39歳男性が奥の部屋から出てきたところを男はいきなり発砲し、男性は頭部に銃弾を受け、病院に搬送されたが間もなく死亡が確認された。犯人はそのまま逃走した。
- ・ 4月22日、カネロネス県ラス・ピエドラス市内の個人商店前の歩道に、同店店主である53歳男性が死亡しているのを警察官が発見した。同男性は2人組の男に強盗の被害に遭い、逃走する犯人を追って店外へ出た際に銃殺された模様である。
- ・ 5月9日、ビジャ・ムニョス地区において、仕入れ業者に10歳くらいの少年を含む4人組が押し入り、従業員の手足を縛り、トイレに閉じ込めた上、現金を奪って逃走した。
- ・ 5月15日、ラ・ウニオン地区において、宝石店に男1人が押し入り、宝石

などを奪って逃走した。被害額は8万ドル相当にものぼる。同宝石店の真正面には15署が所在している。

- ・ 5月17日、マンガ地区において、14歳と17歳の少年が凶器を用いてスーパーマーケットに押し入って逮捕された。本件は女性2名を脅し、現金を奪い去った事件である。
- ・ 5月19日、ヌエボ・パリス地区において、56歳の男性がレストラン内で準備をしていると拳銃や小銃を持った3人の男が男性を店内へ追いやり、売上金を強盗し、逃走した。
- ・ 5月20日、セントロ地区において、ホテルに2人組の強盗が拳銃を持って押し入り、受付人を脅して現金を強奪して逃走した。
- ・ 5月20日、コルドン地区において、アイス屋に男1人が押し入り、客及びレジから現金を奪って逃走した。なお、逃走の際に持っていた銃を発砲した。
- ・ 5月21日、カラスコ・ノルテ地区で、銃を手にした2人の犯人が個人商店主を脅し、金を盗んで逃走した。
- ・ 5月21日、マンガ地区において、両替所から2人の犯人が30万ペソが入った袋を係員から強奪した。
- ・ 5月21日、コロン地区において、パン屋に数人が押し入り、店主及び店員を銃で脅し、現金及び携帯電話を奪って逃走した。
- ・ 5月23日、ラ・テハ地区において、肉屋に強盗に入った犯人が店員の抵抗にあい、ガラスが割れ、従業員がけがを負った。
- ・ 5月23日、セントロ地区において、2人の犯人が金融機関に強盗に入り、大金を強奪して逃走した。
- ・ 5月24日、ハシント・ベラ地区において、3人の泥棒がパン屋に押し入り、店員を併せて4人から現金を盗んで徒歩で逃走した。
- ・ 5月27日、トレス・オンブエス地区において、酒場に2人の強盗が押し入り、従業員と客から金を強奪した。犯人は車で逃走、数時間後に車だけ見つかったが、焼き払われていた。
- ・ 5月27日、セリート・デ・ラ・ビクトリア地区において、犯人はパン屋に押し入り、凶器でその従業員とオーナーを脅し、金を強奪し、逃走した。
- ・ 5月27日、セリート・デ・ラ・ビクトリア地区において、4人の犯人が個人商店へ強盗に入り、現金と商品、天秤が強奪された。
- ・ 5月29日、ハシント・ベガ地区において、4人の犯人が銃を持って商店を襲い、店主を追い払い、現金と商品を強奪し、徒歩で逃走した。
- ・ 5月29日、ラ・ブランケアダ地区において、2人の犯人は眼鏡屋を襲い、銃で店主を殴りつけ、売上金を強奪し、逃走した。
- ・ 5月30日、2人の女が薬局の店員を刃物で脅し、一日の売上金を強奪して逃走した。
- ・ 5月30日、マルドナード県リベラ地区において、農産物市場に5人組の強盗が押し入り、現金3千ペソ及びモニターを強奪してバイク2台で逃走した。店員一人が犯人の一人に銃で頭部を殴られ、6針を縫うけがをした。犯行にか

かった時間は13秒であった。

- ・ 6月1日、ピエドラス・ブランカス地区において、20歳くらいの犯人が個人商店に入り、一人でいた店員から金と携帯電話を強奪し、外で待っていた共犯者のバイクで逃げた。
- ・ 6月1日、バラ・カラスコ地区において、ホテルに強盗が押し入り、2人の犯人は回転式銃をつきつけて脅迫し、ホテルのオーナーと3人の従業員を縛り、5千米ドルと2万ペソを強奪した。
- ・ 6月3日、ビジャ・ドローレス地区において、性感マッサージ店に3人組の強盗が押し入り、店長に手錠をかけ、男性客や女性スタッフを銃で脅し、レジから現金を奪うほか、男性客からも携帯電話を奪って逃走した。
- ・ 6月4日、マルビン地区のスーパーマーケットに3人組の強盗が押し入り、店員と客を脅し、売上金を奪って逃走した。
- ・ 6月4日、ブセオ地区において、パン屋に男が押し入り、現金を強奪して逃走した。
- ・ 6月19日、ポシートス地区において、金物店に2人組が押し入り、現金を強奪して逃走した。

カ その他

- ・ 4月1日、セロ・ラルゴ、トレインタ・イ・トレス、ドゥラズノの県境にある教会に男一人が押し入り、神父をマチェテ（刃物）で切りつけ重傷を負わせた上、金及び車を奪って逃走した。犯人は数時間後に逮捕された。
- ・ 4月4日、ポシートス地区のランブラ沿いで、車に乗ったブラジル人旅行者がバイクに乗った2人乗りの男に道を尋ねたところ、男は銃を取り出し現金を奪って逃走した。
- ・ 4月4日、メルカード・モデロ地区で、現金輸送車と警備員が銃を持った4人組に襲われ現金を強奪された。被害者の一人が犯人に銃で頭を殴られ軽傷を負った。
- ・ 4月10日、ペニャロール地区において男性がバイクで走行中、2人組の男に襲われ、バイクを奪われそうになったが、男性が抵抗したため犯人らが発砲、男性が負傷した。
- ・ 4月12日、マンガ地区において、路上でギターリストの男性が男一人に銃で脅されギターを奪われそうになったので抵抗したところ、頭部を2発撃たれ殺害された。
 - ・ 4月14日、ウニオン地区において、会社経営者が現金を銀行に持って行こうとした際、バイク2台に乗った4人組に襲われ、自動小銃で脅され現金60万ペソを強奪された。
- ・ 4月19日、レドゥクト地区において、2人組の男が教会関係者の手足を縛り現金を奪って逃走した。
- ・ 5月4日、リベラ県において身障者の男性が自宅で強盗の被害にあった。
- ・ 5月6日、38歳の男性が2人の犯人に、歩行中、角を曲がる時に銃を突きつけられ現金を要求され、抵抗したが腕を撃たれた。

- ・ 5月9日、プンタカレータス地区において、テレビ及びラジオパーソナリティーの男性が友達といたところ、5人組に襲われ、銃で脚を撃たれたうえ、車を奪われた。なお、車は2日後に別の場所で乗り捨てられているのが見つかったが、車内にあった財布や携帯電話等は見つかっていない。
- ・ 5月19日、ベジャ・イタリア地区で、28歳の若い男性が付近を歩いていると、バイクに乗った2人の男が発砲して持ち物を強奪し、逃走した。
- ・ 6月23日、メルカード・モデロ地区において、金物店に2人組の強盗が押し入り、警備員から銃を奪い、レジから現金を強奪して逃走した。
- ・ 6月23日、セロ地区において、個人商店に銃を所持した2人組強盗が押し入り、レジから現金を強奪して逃走した。
- ・ 6月27日、国内一部リーグのプロサッカーチーム「ワンダラス」のクラブハウスに3人組が押し入り、その場に居合わせた選手や関係者らを銃で脅し、用意されていた給料や小切手、携帯電話等を奪って逃走した。同チームは一ヶ月前にも同様の被害を受けている。
- ・ 6月27日、ハルディネス・デル・イポドロモ地区において、男女のカップルが路上で銃を持った2人組に金銭を要求された。男女が逃げようとしたことから犯人が発砲、男性が負傷した。

(2) 殺人

日本人の被害は報告されていないが主な事例は以下の通り。

ア 既遂

- ・ 4月19日、カネロネス県バロス・ブランコス地区のサトウキビ畑で、若い男性の遺体が発見された。身元の確認を急いでいる。
- ・ 5月6日、カネロネス県ラ・パス市内のバス停でマテ茶を飲んでいた2人の若者に向けて、通りがかったバイクに乗った男がいきなり銃を発砲、23歳男性が死亡、もう一人が重傷を負った。
- ・ 4月16日、警察は胸部に銃弾を受けて通りに倒れて死亡していた人を発見し、23歳の若者と断定された。前歴所有者であった。
- ・ 5月17日、タクアレンボ県において、67歳の犯人が80歳台の男性をあらかじめ用意してあったハンマー様のもので殺害した。
- ・ 5月19日、マルドナド県において、妻を殺して遺体を自宅リビングの下に埋めた男が刑務所へ収監される判決が降りた。母の日に実家を訪れた娘が母親のいないのを不審に思い発覚したもの。
- ・ 5月30日、コロニア・ニコリッチ地区において、28歳の女性が3発の銃弾を受け殺害された。そのうちの1発は頭である。警察は匿名の通報を受け、捜査中である。
- ・ 6月1日、カネロネス県において、19歳の若者が数種類の銃で何発も撃たれて殺害された。
- ・ 6月7日、アグアダ地区の民家で、住人である62歳男性が帰宅した際、同居している67歳の姉が洗面所で倒れているのを発見したが死亡が確認された。被害者は頭部、下腹部等に刃物で刺された跡が多数あった。

- ・ 6月19日、カサボ地区において、凶悪犯歴のある31歳の男が自宅で2人組に襲撃され、16発の弾丸を受けて死亡した。

イ 未遂

- ・ 4月8日、マローニャス地区において、パトカーで警ら中の警察官が、バイクに乗った2人の不審な男に職務質問しようとしたところ、銃を発砲しながら逃走したが、バイクは壁に激突、男1人は逮捕され、他の1人は銃弾を受けて病院で死亡が確認された。男たちが乗っていたバイクは盗難車であった。
- ・ 4月10日、ラ・テハ地区において、路上で13歳の少年が2人組に襲われ、銃で撃たれて負傷した。
- ・ 4月14日、セロ地区において、露天の菓子を買おうと並んでいた客に対し無差別に発砲した。3歳の男の子が足を、男女2名が腹に銃弾を受け負傷した。
- ・ 4月18日、大使館が所在するパルケ・ロド地区の大使館前交差点で、バイクに乗った2人組の不審者が警察の姿を見た途端に逃走したことから警察が追跡したところ、同人らが発砲、警察が応戦した。一人は逃走中に拳銃自殺をし、警察はもう一人を逮捕した。犯人らは逃走直前に乗っていたバイクを強奪していたと判明した。
- ・ 5月3日、アグアダ地区で1台のバイクから無差別発砲があり、4人の若者が負傷した。警察が防犯カメラを解析中である。
- ・ 5月23日、ラ・テハ地区において、若者二人が言い争いとなり、一人が他方を刃物で刺し、逃走した。
- ・ 6月19日、セロ地区において、19歳の若者が、40歳男の自宅の前を通りがかった際に、同男に対し発砲した。男は命に別状はない。
- ・ 6月19日、カネロネス県ラス・ピエドラス市内の路上で、バイクに乗った2人の若者が、他のバイクに乗った2人組に銃撃され、うち一人が負傷した。

(3) 強姦

日本人の被害は報告されていないが主な事例は以下の通り。

- ・ 4月17日、カネロネス県シャングリア市内のバス停にいた女性が、男一人に銃を突きつけられ、近くの浜辺まで連れて行かれて強姦された。更に男は女性から貴重品を奪って逃走した。

4 テロ・爆弾事件発生状況

- ・ 6月9日、パルケ・ロド地区所在のメルコスール事務所に対し、爆弾を仕掛けたと電話があり、ロチャ県港湾の深水建設工事に関する会議に出席予定の議員、各国大使館員等が一時避難する騒ぎがあった。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていないが主な事例は以下の通り。

- ・ 5月30日、カネロネス県において、女性が生後7ヶ月の子供と車で走っていると、3人の犯人が車に乗り込み、車を運転し続けるよう脅迫し、犯人は女性から現金と携帯電話を盗んで約1時間後2人を解放し、逃走した。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

モンテビデオ県近郊において誘拐事件の発生が見られるほか、銃を使用した強盗事件が多発している。当地では日本人は一般的に「裕福」と見られており、日本企業及びその関係者が誘拐や強盗の標的となる可能性は排除できない。

また、労働者の権利意識が高く、労働争議が過激に行われることから注意を要する。